

万博コラム vol. 7

ユニークな万博建築を巡る楽しみ



大阪・関西万博公式
キャラクターミャクミャク
©Expo 2025



提供：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

固政策推進課(内線 514)



公益社団法人
2025年日本国際博覧会協会
経営企画室 上席審議役 西本 敬一

ユニークな建築を巡るのも、万博の楽しみ方の一つです。

最大の目玉は、万博のシンボルでもあり、世界最大級の木造建築物、大屋根リングです。1周約2kmの巨大リングは、会場内のメイン通路であるとともに、エスカレーターやエレベーター、階段で大屋根の上にも上れます。この「大屋根リング」に上った人は皆さん、「百聞は一見に如かず」と言いつつ、その迫力に感動されます。

リングの上からは、リング内に配置された世界中のパビリオンを、あたかも地球儀を見るかのように眺めることができます。世界は「多様でありながら一つ」という会場コンセプトを、実感いただけます。また夕方には、瀬戸内海に沈む美しい夕日をご覧ください。ちなみに、この大屋根リングは令和6年8月21日に1周が



提供：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

なりました。予定よりも1カ月早いペースでした。2005年の愛・地球博では、実はタイプAと呼ばれる独自に建てる海外パビリオンは0でした。従って、今回は55年ぶりに海外の独自パビリオンをご覧ください。例えば、中東のカタールパビリオンは、日本の建築家、隈研吾さんの設計です。伝統的な帆船と日本の伝統的な指物の技術を融合させたユニークな外観です。スイスパビリオンは5つの球体で構

成され、全体重量はなんと400kgを下回る軽量構造です。音楽で有名なオーストリアは、楽譜をモチーフにしたデザインで、踊り出したいくなるような外観です。

万博はいつの時代も、建築家の大いなるチャレンジの場です。今回は、建築界のノーベル賞と呼ばれるプリツカー賞の受賞者も多く参加しています。例えば、大催事場、EXPO^{エキスポ}ホールの設計は伊東豊雄さんによるものです。黄金に輝く円形の大屋根が、強いインパクトを発し、太陽の塔を連想させるとの評価もあります。公募で決まった愛称は、「シャインハット」。約2000席のホールでは、開会式や閉会式、音楽や演劇などの劇場催事が行われます。

若手建築家にもチャレンジの場を提供しています。1970年の大阪万博では、当時30代の黒川紀章さんや磯崎新さんが万博に参加し、その後の活躍のきっかけとなりました。今回は、20人もの若手建築家の方々が、トイレやステージなど、20カ所の施設の設計にチャレンジしています。

例えば、400年程前に大坂城再建で切り出されたものの利用されなかったいわゆる「残念石」が、トイレの入口として再登場します。このように、大阪・関西万博は、多くの若手建築家のチャレンジを応援しています。



提供：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

本市の子どもたちを
大阪・関西万博へ
無料で招待



本市の子どもを対象に、大阪・関西万博の入場券チケット(D)を配付します。
対象者 申請日時時点で市内在住の、令和7年4月1日時点で次に該当する人
・満4〜17歳の人(平成19年4月2日〜令和3年4月1日までに生まれた人)
・高等学校などに在学する18歳以上の人(平成19年4月1日以前に生まれた人)
配付券種 子ども招待1日券(会期中いつでも1回入場可能なチケット)
申請期限 9月30日(火)まで
入場期間 4月13日(日)〜10月13日(祝)
大阪府万博子ども招待コールセンター(0675263090)(祝日、年末年始を除く、月〜金曜日、午前9時〜午後6時、こども政策課(内線291))
※この招待は学校教育活動の一環で実施するものとは異なります。